

10月試験

令和8年度 入学試験 大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻

専門に関する筆記試験 (中学校免許状取得プログラム：国語)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題・解答用紙の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 問題用紙は8枚、解答用紙は4枚です。
4. 受験番号を記入する欄が問題用紙には1ページ目に、解答用紙はすべてのページにあります。すべて記入しなさい。
5. 試験終了後、問題用紙、解答用紙はすべて回収します。

問題用紙

筆記試験

令和8年度 大学院教育学研究科 教育実践高度化専攻

入学試験【9月・10月・2月上旬・2月下旬】問題

【中学校免許状取得プログラム(国語)】

解答はすべて別紙解答用紙に記入せよ。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上未掲載としています。

受験番号

著作権の関係上未掲載としています。

著作権の関係上未掲載としています。

著作権の関係上未掲載としています。

著作権の関係上未掲載としています。

(若松英輔『読み終わらない本』より。設問の都合上、一部改変した。)

注1 ときじくのかぐの木の実……時節に関係なくいつでも高い香りを放つ橘のこと

問一 傍線部①～⑤の漢字は読みをひらがなで記し、カタカナは漢字に直せ。

問二 空欄 A に入る言葉として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア すると イ だから ウ しかし エ すなわち オ つまり

問三 傍線部(1)「目に見えないもう一つの」とあるが、これと同じことが表現されている箇所を五文字で抜き出し、答えよ。

問四 本文中に書かれてある岡倉天心の考えに合致するものを、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えよ。

ア 調和のとれた美しい言葉との出会いは人生上の事件といえることができ、それは人生を変えるに足る出来事であろう。

イ 「共鳴」や「共振」を通して感じる差異を、できるだけ「東洋」という特定の基準に「一致」させることが大切である。

ウ 肉体がなくなっても「いのち」は終わらないため、死とは、「生命」の国から「いのち」の国へと新生することである。

エ 戦争が起らないようにするために何かができるとしたら、人間が「美」をいつくしむ心をよみがえらせることにある。

オ 花は悲しみの底にある時に人間に寄り添ってくれるだけでなく、人間の内面にある宇宙への信頼を深めてもくれる。

問五 傍線部(2)「ある人にとって常世の国は、今もありありと存在する」とあるが、これはどういうことか、説明せよ。

問六 傍線部(3)「生きた詩を書きたいのであれば、「詩」を書こうとしないことだ」とあるが、これはなぜか、六〇字以内で簡潔に答えよ(句読点を含む)。

問七 傍線部(4)「暗い道にいくつかは、詩という消えることのない灯があった方がいい」とあるが、筆者がこのように言う理由として最も適当なものを、次のア〜エからひとつ選び、記号で答えよ。

ア 悲痛の底にあった筆者がブツシュ孝子の詩に救われたように、生きることへの真摯なまなざしが残り続ける詩は、試練の多い人生に手を差し伸べることができるから。

イ 嘆きの言葉をそのままつむぐことで、詩のちからを後世の人間に教えられるので、人生の断崖にある者に手を差し伸べるためには、その言葉を遺し続ける必要があるから。

ウ 若い人は自分の生涯の終わりをめぐって考えることが多くないので、詩を書いている人の言葉がどれほどのちからを宿しているかを、考えられるようになるまで待つ必要があるから。

エ ある人には心を奪われる花のように感じられる詩であっても、出会う人生の時期によって感じ方が変わるため、後に生まれる人には手を差し伸べられないかもしれないから。

二、次の文章は怪談集『玉櫛笥』^{たまぐしげ}の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上未掲載としています。

(本文は木越治編『江戸怪談文芸名作選 新編浮世草子怪談集 第一巻』(国書刊行会、二〇一六年)により、一部改変を加えた。)

問一 傍線部①「死したる体にもてなしける」、③「別事なし」、④「やをら穴より出でて」、⑦「あやしく思ひ」を現代語訳せよ。

問二 傍線部②「にげ出でむとはしけれども」、傍線部⑤「すこしなでて去にけり」を例にならって文法的に説明せよ。

例 方角(名詞)も(係助詞)しら(四段動詞・未然形)ず(打消の助動詞・終止形)

問三 傍線部⑥「このよし」が指す内容を五〇字以内で説明せよ。その際、「はじめの狼」「大きな狼」「頭」の語を全て使用すること。

問四 傍線部⑧「この童、かしこくもあやうき命たすかりし。あさからぬ知恵かな」とあるが、なぜ、皆からこのように言われたのか、物語の内容を踏まえて一〇〇字以内で説明せよ。その際、「立ち去って」「再び」「慎重」「迷」「登」「翌日」の語を全て使用し、文末は「賢明さがあったから」に続くように答えよ。

問五 本作品は江戸時代の成立である。同じ時期に成立した作品を次のア～オから全て選び記号で答えよ。

ア 『宇治拾遺物語』 イ 『雨月物語』 ウ 『西鶴諸国話』 エ 『平家物語』 オ 『奥の細道』

三、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答は現代かなづかいでもよい。なお設問の都合で訓点を省略した箇所がある。

著作権の関係上未掲載としています。

〔蒙求〕による

○鄒……地名。孟子の故郷。 ○孟軻……孟子。戦国時代の儒家。 ○嬉遊……子どもの遊び。下の「嬉戯」も同じ。

○墓間之事……墓場で行われる葬式。 ○賈人衒売……商人が品物を売りつける。 ○学宮……学校。

○俎豆……祖先を祭る時に用いる祭器。 ○揖讓……あいさつしてへりくだる。 ○自若……今までと変わらない。

○織……織物。 ○旦夕……朝も晩も。 ○子思……孔子の孫にあたる儒家。

問一 傍線部①「此非吾所以居処子也」を書き下し文にせよ。

問二 傍線部②「市」、⑨「勤」、⑩「師事」の文中における意味を書け。但し傍線部の漢字をそのまま答えとしてはならない。

問三 傍線部③「復」、⑤「遂」、⑥「既」の読みを、送りがなも含めて全てひらがなで示せ。

問四 傍線部④「真可以居吾子矣」を平易な日本語に訳せ。

問五 傍線部⑦「問学所至」は、「学の至る所を問ふ」と書き下せる。この書き下し文に合うように、返り点と送りがなを施せ。

問六 傍線部⑧「子之廢学、若吾断斯織也」について、ここで孟母が言いたいことはどのようなことか、簡潔に説明せよ。

解答用紙

筆記試験

令和8年度 大学院教育学研究科 教育実践高度化専攻

入学試験【9月・10月・2月上旬・2月下旬】 解答用紙

【中学校免許状取得プログラム(国語)】

採点	
受験番号	

一

問一

④	①
⑤	②
	③

問二

--

問三

問四

--

問五

--

三

問一

Blank rectangular box for question 1.

問二

②

Blank rectangular box for question 2, part 2.

⑨

Blank rectangular box for question 2, part 9.

⑩

Blank rectangular box for question 10.

問三

③

Blank rectangular box for question 3, part 3.

⑤

Blank rectangular box for question 3, part 5.

⑥

Blank rectangular box for question 3, part 6.

問四

Blank rectangular box for question 4.

問五

問
学
所
至

問六

Blank rectangular box for question 6.

受験番号	
------	--